

第8回（令和4年度第5回）府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 令和5年2月3日（金）午前10時～11時40分

2 場 所 府中駅北第2庁舎3階会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員12名

榎本成子委員、大谷久知委員、佐野洋委員、島田文江委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、中村洋子委員、長畑誠委員、松浦浩司委員、松木博子委員、福田豊委員、藤原美江委員

※岩久保早苗委員、木内直美委員、内藤大輔委員欠席

(2) 職員6名

佐藤文化スポーツ部長、鈴木文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、竹川事務職員、山本事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 第7回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ 資料2 第10期府中市生涯学習審議会答申（案）（見え消しあり）

ウ 資料3 第10期府中市生涯学習審議会答申（案）

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

5 審議事項

(1) 「学び返し」を進めるための地域人材の活用について

会長： 本日が第10期の最終回という事になる。委員の皆さんの熱心な審議によってここまで答申（案）をまとめることができた。本日は最終回であるため、答申を完成させる必要がある。資料2は委員からの意見を受け、どのように変えたか分かるようになっている。しかし、このままだと読みづらいため、資料3を使って皆さんと順番に確認していきながら、さらに直す必要があるかを話し合っていきたいと思う。そして、資料3の表紙に答申のタイトルが書いてあるが、こちらも確定しているものではないため、内容を確認した後、最後に決定したいと思う。

《資料3 「はじめに」読み上げ》

この部分について、何かご意見等があれば発言いただきたい。
特に無いようなので、次に進む。

《資料3 「1. 地域の課題解決につながる人材活用に向けて」読み上げ》

この部分について、何かご意見等があれば発言いただきたい。

委員： 文章としてはこのままでいいと思うが、懸念事項として、これを実現するにあたって具体的なものがあまり出てこない。何個か具体的なものがあればいいが、その点が心配である。

会長： 大事な点である。それは、答申において常に気にしなければならない。今回の答申の最初の3点は主に府中市生涯学習センターに求められる機能ということになっている。答申の提出先は教育委員会だが、最終的には府中市生涯学習センターの新しい指定管理者に市からしっかりと答申について伝えてもらえるものと期待しているがいかがか。

事務局： 新しい指定管理者には、市として、講座内容の要望については随時行っていきたいと考えている。

委員： 要望はこれからするのか。それとももうしているのか。

事務局： 現在話し合いをしているところである。

会長： 答申を提出するのは3月である。そのため、府中市生涯学習センターの職員も答申については読むはずであるが、市としてこのような内容が出たから実施してほしいという事を何らかの形で行ってほしい。今までの話し合いの内容だけでなく、答申の内容もしっかり伝えてほしい。

委員： 指定管理者が決まった後に答申がまとまっても意味がないのではないか。新しい指定管理者を募集する際に要求水準書を基に募集したと思うが、その中に地域課題の解決という文言は入っていたのか。

事務局： 直接的にそのような表現は入っていなかったと記憶しているが、地域との連携という表現で、地域とかかわり持った活動が入っている。

委員： この答申に繋がるような表現が入っているという理解でいいのか。

事務局： 広い意味で入っていると認識している。

会長： 順番から言うと、答申が公式に出るのは3月である。そのため、要求水準書の段階では議論もできていなかったのが当然なかったはずである。そのため、答申として出たものをしっかりと新しい指定管理者に話をしてもらい、来年度からというのは難しいかもしれないので、少なくとも再来年度から行ってほしいと市から働きかけてもらえることを審議会として期待するという事である。

委員： 新しい指定管理者にその内容を要望しても、指定管理者の役割として、地域課題の調査と把握するということまで要求できるかは難しい気がするが、会長のご発言のとおり長期的に反映させるように働きかけるという事であれば、このままでいいと思う。

会長： 会長をしばらく務めているが、私自身は府中市民ではないため、個人としては発言できない部分がある。ただ、答申は、審議会として委員の皆さんと作ったものであるため、市として指定管理者に働きかけるのは当然のことであるが、府中市は市民協働を長い間謳ってきているため、権利の1つとして市民から指定管理者に働きかけることができるのではないかと考えている。

《資料5 2. 地域の「学びのコミュニティ」形成につながる人材活用に向けて 読み上げ》

この部分について、何かご意見があれば伺いたい。

先ほどまでの話と重なる点が多い。ボトムアップで新しい学びを作っていくという事である。

特に無いようであれば、次に進めていく。

《資料3 3. 学びと活動の場である府中市生涯学習センターの さらなる充実に向けて 読み上げ》

この部分について、何かご意見があれば伺いたい。

特に無いようであれば、次に進めていく。

- 《資料3 1. 学びのニーズに対応したサポーターとなる人材を育成するために
2. 生涯学習サポーター制度をより多くの市民が使えるようにするために
読み上げ》

この部分について、何かご意見があれば伺いたい。
特に無いようであれば、次に進めていく。

《資料3 おわりに 読み上げ》

この部分について、何かご意見があれば伺いたい。

委員： 文言の変更を希望するわけではないが、「学び返し」という言葉について、一般人からすると理解し難い言葉である。一般的に使われている言葉としては「学び直し」である。「学び返し」をいきなり出しても良く分からないのではないかな。そのため、副題のようなものを付けたほうがいいのではないかな。このままの言葉でだと日本語の文法としてもおかしいし、魅力的な言葉かということそうでもないため、分かりやすい表現にした方がいいのではないかなと思う。

会長： 諮問事項が「『学び返し』を進めるための地域人材の活用」となっている。この「学び返し」がどのように生まれたかということ府中市生涯学習審議会の長い歴史の中で府中市は「学び返し」が大事で推進していくという事をずっと打ち出してきているものであるため、府中市生涯学習審議会の文脈では、普通に使われている言葉である。ただ、今のご発言のように初めて見る方が読んだときに分かりづらいという事はあるかもしれない。

委員： 短いキャッチフレーズのようなものがあればより良いのではないかな。

委員： 今の話は、第3次府中市生涯学習推進計画の中で意味や定義について書かれており、個人的には、一般化されているものという認識でいた。ただ、知らない人もいるため、第3次府中市生涯学習推進計画に書かれている定義も注釈として付け加えれば良いのではないかな。第3次府中市生涯学習推進計画では、「学び返し」について、「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくこと」と書いてある。

会長： 「学び返し」というのが、府中市独自の言葉であり、大事にして

いるものであるため、これを変えるというわけにはいかない。注釈を付けるのが良いのかもしれない。

委員： この答申はどのように公開されて、誰が読むものなのか。

事務局： 教育委員会への提出後、庁内で報告し、ホームページ等で市民に公開するという流れになっている。

委員： 市民も目にすることになると、先ほどの発言のように優しい言葉で表現するなど、分かりやすさがより重要になると思う。それと、フォントが全部ゴシック体になっており、このフォントでいくのかという事と、数字の表記にばらつきがあること、括弧の前に句読点があり、今までの経験だとそのような表現はあまり見ないので気になった。それから、この内容を実現してくためにどのように進めていくのかが気になったところである。

会長： 全体のフォントなどは最終的には市の方で決定するものであるかと思う。それから「学び返し」については先ほどの発言のように第3次府中市生涯学習推進計画で「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくこと」とあるため、これを「学び返し」が最初に出てくるところに注釈を付けるという事で対応したいと思う。「学び直し」ではなく「学び返し」である。これは、持っている力を他の人たちにどんどん生かしてもらい、市民同士が学び合うという意味があり、現在においても先端をいく言葉であると思うので、注釈等で強調したいと思う。

委員： 先ほどの発言で「学び返し」が日本語としてもおかしいという感想を伺って意外に思った。個人的には、インパクトのある言葉だなとずっと思っていた。どこにでもあるような言葉ではなくて、注意をひくような言葉になっているなと感じた。

委員： 「学び返し」は府中の歴史ある言葉で今さら揺らぐこともなく堂々としており個人的には良いと思う。他市でも「学び〇〇」などあり、自治体によって呼び方も様々である。府中は「学び返し」で良いのではないかと思う。これ自体を市民に浸透させるのが我々の役目でもあるため、文字のデザインなどではなく、もっと内容的な部分の話を進めたほうが良いと思う。

委員： これは大人向けなのかなと感じている。ここまで、「市民一人ひとりが持っている力を地域に還元する」という事を言っていて、子

どもはその還元することができないから、受けるだけになってしまうので、それでいいのかなと思ったりもした。今の社会情勢で、学校に行けない子や、不登校の子、学力で学校に行けなくなってしまう子がたくさんいて、一方的にものを受ける場所がこの府中市生涯学習センターにあったら、派遣してもらって力を貸してくれたらどれほど嬉しいかと感じながら聞いていたので、誰向けなのかという事が心に刺さった。

会長： 生涯学習というと、どうしても大人向けで、高齢化社会の中では、どうしても年配者の方に目が向きがちである。しかし、生涯というのは生まれたときからであるため、そういう意味では子ども達も同じことであると思う。個人的には、誰であっても社会に還元できるものは何か持っていると考えているため、これは学校教育などでも生かしていくことができれば良いと思う。

委員： 「学び返し」という言葉をこの審議会でもよく聞いて、自分の中では近い存在になっているが、やはり、まだ市民の中には浸透していないような気がする。確かに注釈を付けると分かりやすくなるので付けていただきたいが、注釈が無くても市民が「学び返し」という言葉を理解して使っていけるようになれば良いと思う。

委員： 「学び返し」がもっと市民に浸透したら、学びたい人、教えた人は多くいる。しかし、そのことを知っている人は少ない。ホームページに掲載しているからといってそれをしっかりと見に行くかというところではない。そのため、このことをもっと分かりやすくみんなに配れるような情報誌やパンフレットがあればより多くの人に見てもらえるのではないか。所属している団体に1月にイベントを行った。その時に皆さんが持っている技術を披露するというコーナーを作った。すると、多くの人々が積極的に参加してくれた。そういった人たちが例えば生涯学習サポーターに登録するとした時は手続きについてどうすればいいかが分からなくなってしまう。今はここにあるから見てくださいという状態なので、そのままでは広がらないと思う。

会長： 今の話は、今回の答申でいうと4ページの生涯学習サポーターをどれだけ知ってもらえるか利用してもらえるかという話で、答申の中にも書かれているので、しっかり実現するようにしてもらいたいと思う。

委員： 「学び返し」という言葉の定着については、以前も話があり、大きな垂れ幕などを作れば良いというような発言をした。「学び返し」をアピールする機会があるにもかかわらずしていないのは市であると思う。いくらリーフレットを作っても、新聞広告に載せても読まない。本人が疑問を持たなければそれに接していかないので、本人たちに疑問を持たせる刺激を出さなければならない。そうすると、府中市の「学び返し」と大きく張ってあるなど、スタートはそこからのような気がしている。そのため、チラシを配ってもというよりは、本人に疑問を持たせることが必要である。ただ、1つ問題なのは、本人が疑問を持ってアクセスしてきたときに、しっかりそれに応えることができる資料を市や施設が共通のものとして、準備できているというところである。その点については、今回の答申とはまた別の事であると思う。

委員： 疑問を持たせるというのは非常に重要な視点であると思うが、その前に中身がいかに関魅力的かどうかも重要であると思う。

委員： 以前、関東甲信越社会教育研究大会山梨大会で甲府に行った際に生涯学習のまちという看板があった。昔は、府中は福祉のまちと言っていたと思うが、学び返しを楽しもうといったような優しい表現でアピールできたらと思った。

委員： 大人から大人に「学び返し」することの難しさが分かった。平成17年からの成果のようなものが見えてくると納得感も増すと思う。どうすれば、浸透するかという事をずっと検討されてきたと思うが、そろそろ、その成果品のようなものがほしいなと思う。

会長： 先ほどから話に出ていた「学び返し」の注釈についてであるが、「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくこと」としているがその前に、「学び返しとは府中市独自の理念で」を入れるのはどうだろうか。

委員： 広報ふちゅうの中で、色々な審議会の日程等は掲載されているが、その審議会等がどういった活動につながっているのかを一言コメントのようなもので、紹介されていれば「学び返し」の事などもより知ってもらえると思う。

会長： 今回の答申を様々な形で市民の目に触れるようにまずはしていただきたいと思う。

委員： 「おわりに」の部分で、最後が「期待します。」で終わっている

が、これは市に期待するという理解でいいのか。

会長： 提出先が市であるため、その理解で良いと思う。

委員： 「はじめに」のところで、最後の段落の1行目から2行目にかけの鍵括弧の後ろに読点があるが、文章がつながらず意味が通じにくくなっているのではないだろうか。

会長： 諮問事項自体が文章になっているので、少し前後の文言を変える必要がある。

委員： 最初の諮問事項というのが少し違和感を覚える。諮問事項に答申をするのではないので、事項をとって、「『学び返し』を進めるための地域人材の活用について」という諮問を受けてとするのはどうか。

会長： 確かにそうすれば意味は通る。そのような形に変更させていただく。そうしたら、最初に戻ってタイトルについて、決めたい。現状「地域人材の活用につながる府中市生涯学習センターに求められる機能について」という事で、元々の諮問事項に府中市生涯学習センターの機能という話し合いに焦点を当てたという事になるが、いかがか。

委員： 機能という表現が固いような気がする。役割などという表現にしてはどうか。

委員： 厳密に言うと、機能と役割はちがうのでこの場合は機能のままでいいのではないか。

会長： 審議の中では機能という事で進めていたので、少し変えるのは難しいかもしれない。何か提案はあるか。

委員： 市に提出するのであれば機能のままでいいのではないか。市民となると少し固いと思う。

会長： そうしたら、今回は市に提出するものという事で、タイトル元の表現のまま行きたいと思う。いただいた意見は、本当にその通りで、これから諮問されたことを答申していくのも役割だが、答申は最終的には市民に伝わらなければ意味がない。その点は常に気を付けなければいけない。訂正点は、2点のみでどちらも1ページ目のはじめにの部分である。1点目が、諮問事項を消してその後ろにという諮問を受けてと入れる。2点目が、その中の「学び返し」に注釈を付けるという点で、その注釈は「学び返しとは府中市独自の理念で、市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくことを意味します。」というものであったかと思う。

委員： 参考資料2で年号が間違っているため訂正をしていただきたい。

会長： それでは、以上の形で第10期の答申とさせていただきたいと思う。ご協力に感謝する。最後に副会長から一言いただきたいと思う。

副会長： 2年間の任期お疲れ様でした。会長からもあったが、府中市が会長市となっていたため、忙しい期であったと思う。その中で最終的に答申をまとめることができたのは、委員の皆さんの協力のおかげである。重ねて感謝を申し上げたい。

会長： 審議会としてはこれで終わりとなるが、生涯学習の現場はこれからもずっと続いていく。ぜひ皆さんもそれぞれの場所や活動がある中で、様々な形で、府中市生涯学習センター、文化センター等を含めて府中市の生涯学習の充実、まさに「学び返し」をどう進めていくかという場面においてご協力いただければと思う。今回審議されたことを市としてもしっかりと生かしてもらいたいし、それを我々もしっかり監視していかなければいけない。府中市は協働のまちであるため、我々が元気でなければならない。今回、これだけ人材の皆さまと集まって活発な話ができ、それこそがまさに府中市の力であると思うので、これからもその力を発展させていってもらいたいと思う。